



ゆめこい恵比須
(佐賀市中央本町)

コロナ禍 今こそ 恵比須さん で元気に

特集

佐賀市内の恵比須さん30体 その数、日本一

400年間 庶民の暮らし見守る

新型コロナウイルス感染症の終息が見えず、胃の痛むような日々だけど、佐賀の町の辻々では江戸時代から恵比須さんたちが満面の笑みをたたえて私たちの暮らしを見守ってくれている。腰をかかめて目を合わせれば、自然に笑みがこぼれ、えびす顔に。「元気を出さなちゅ」と思えてくる。

長崎街道に280体

江戸時代、佐賀鍋島藩の城下町として栄えた佐賀市。人や物流の大動脈としてにぎわった長崎街道の辻々に恵比須さんの石像が鎮座している。佐賀城下の東の出入り口だった「構口」(佐賀市巨勢町)から「高橋」(佐賀市嘉瀬町扇町)までの約5kmの長崎街道沿いには江戸時代につくられた280体の恵比須像が残っている。市町村合併後の北は富士町から南の川副町まで広げると約830体もあり、その数は日本一。その上、商売繁盛などを願って恵比須像が今もつくられ、増え続けている。

“新顔”も次々に

恵比須さんを生かした町おこしに取り組む「恵比須DEまちづくりネットワーク」代表の村井禮仁さん(87)は「江戸時代からの石像がたくさん残っている」といことは、いかに佐賀の人たちが恵比須さんを大事にしていたかという証。400年続くのは並大抵のことではありませんよ。しかも、今も恵比須像が年々増えつつあるというんですから、佐賀市は歴史文化が民間信仰と共に引き継がれている大面白いです。

ちょっと残念なのは、直接お世話をしている人たちを除くと、恵比須像があまりに多すぎて、逆に、市民の関心が低いこと。「恵比須像、そう言えば、多いね、で終わる。

でも、県外の人に紹介したら、みんなびっくりしますよ」

ポストコロナ

コロナの前までは各地からバスツアーが繰り出すなどにぎわっていたが、コロナ騒動で全くなくなってしまい、寂しさを隠せない。

佐賀市呉服元町の活動拠点「開運さが恵比須ステーション」も「一日に一人か二人来るくらい」に激減しているが、ステーションでは「ポストコロナ(コロナ以後)」に向けて、さまざまなイベントを検討中だ。

もっと自慢していい



「恵比須DEまちづくりネットワーク」
代表の村井禮仁さん(87)

「東京で新聞記者をしていて定年後に佐賀に戻ってくと、中心商店街に元気がない。そこで何とかおこしをと、始めたのが恵比須さんにスポットをあてた活

動。商売繁盛の神様だから、あやかっって佐賀市を盛り上げようってね。恵比須さんを400年も前から、ずっと大切におまつりしてきたまちは全国どこを探してもありませんよ。兵庫県西宮市のえびす宮総本社・西宮神社の宮司さんが佐賀に来るたびにうらやましがられるんですから。『佐賀にはたくさん恵比須さんがあるけど、西宮には総本社だけで町なかには一体もない。総本社があるからいい、ともう満足してしまっている』とね。佐賀は日本一の恵比須さんのまちだって、全国にもっと自慢していいと思いますよ」

※兵庫県西宮市の西宮神社は福の神として崇敬されているえびす様をおまつりする神社の総本社。本殿への参拝「番乗り」を目指して大勢の参拝客が境内を走り抜ける「福男運び」でも知られる。

殿様説、商売繁盛説、旅の安全説…

恵比須さんが多い理由

諸説あって、その一つが、1615年、大坂夏の陣のとき、佐賀藩初代藩主鍋島勝茂公が兵庫県西宮市の西宮神社で必勝祈願を行った。その勝利のお礼に分霊をいただき佐賀市北川副町でまつたことから、住民の間にも広まったという説。

また、長崎街道を中心に商売を営む人が多かったことから商売繁盛を祈願して広まったという説や、長崎街道沿いに多いことから、旅の安全を祈願したという説、漁業の神様としてまつた恵比須さんが市内の水路を使って広がったという説などがある。

願いをかなえるには？

宝珠に触れて幸せに

恵比須さんの中には腹部や烏帽子に宝珠が刻まれているものがある。その宝珠に触りながら願い事をするとか言うといわれている。



東町恵比須
(佐賀市松原)

※宝珠とは意のままに願い事をかなえる宝の珠のこと

恵比須さんって？

「七福神」の一員で、唯一の日本古来の福の神。右手に釣りざおを持ち、左わきに鯛を抱える姿が一般的だが、大福帳(商家の売買勘定の元帳)やそろばんを持つなどさまざまなスタイルの特殊恵比須が多いのも佐賀の特長だ。

江戸時代の紀行文 にも登場

他の藩の人が佐賀城下を通過した時に、この藩には恵比須像がやたらに多い、辻(交差点)に置いてあるということを珍しがって旅日記に書き残している例がいくつかある。例えば、尾張商人の菱屋平七が1802年に著した「筑紫紀行」に、「この国の町屋にも村々にも道の辻ごとに石の恵比須を置けり」と書いている。



長崎街道
恵比須
(佐賀市白土)

2011年にさまざまな日本一を認定する機関「日本一ネット」から佐賀市が恵比須の数日本一であると認定を受けた。



恵比須の数 日本一に認定



四宝珠恵比須

交通安全、家内安全

願い事が叶うという宝珠が烏帽子に一つ、胸に3つ、合わせて4つもある。以前、家に車が突っ込んだ際、身を挺して家を守ったとも。佐賀市八幡小路。

恋愛成就、商売繁盛



佐賀市白山の八幡神社のすぐ南にある、1992年再建の恵比須さん。端正で甘い顔立ちに、韓流ブームのころは「ヨン様」と呼ばれたことも。

ご利益もさまざま

さまざま



八坂成就恵比須=八坂神社



とんさん恵比須=松原神社

宝くじがよく当たるなど、金運上昇のご利益があるといわれる恵比須さんもちろちらに。佐賀県が宝くじの都道府県別の高額当選率で2007(平成19)年度に1位になったこともある。

例えば、佐賀市柳町の八坂神社境内にある「八坂成就恵比須」(1754年奉納)。恵比須さんにしては珍しく笑っておらず、武家のように背筋が伸び、上品で凛とした顔立ちだ。そこには佐賀新聞の記事が飾られていて、「小城市牛津町の宝くじ売り場担当者が恵比須八十八ヶ

金運アップ

宝くじが当たる!

所巡りでこの恵比須さんに宝くじの当選を祈願したら、その売り場から1等と前後賞を合わせて3億円が出た」とある。

佐賀藩主をまつる佐嘉神社・松原神社(佐賀市松原)の境内にある「とんさん(殿様)恵比須」を訪ねると、「宝くじ 高額大当たりしました」と感謝する絵馬が掲げられていた。

このほか、中央本町の佐賀信用金庫や、みずほ銀行、コムボックス佐賀駅前宝くじ売り場にも恵比須さんがいらっしやる。

学業成就、合格祈願

学問の神様菅原道真公をまつった牛嶋天満宮(佐賀市東佐賀町)にある恵比須さん。5体並ぶ恵比須さんを総称して満天恵比須。受験期には合格祈願に訪れる人の姿も。



満天恵比須

さまざまなお利益があるといわれている恵比須さん。無病息災、恋愛成就、合格祈願など、それぞれのエピソードとともに紹介する。

子宝安産・子どもの幸せ

ひざの上には赤ちゃん。子宝を授かったと、お礼参りも多いという。2007年建立。佐賀市白山の八幡神社。



子育て恵比須

健康長寿、無病息災

別名・夫婦恵比須とも呼ばれる、1690年建立の市内最長老の恵比須さん。2度首相を務め、早稲田大学を創設したことなどで知られる大隈重信侯の生家(大隈重信記念館)が近くにあり、もしかしたら大隈侯も子どものころ、手を合わせていたかもしれません。佐賀市材木町。



双体恵比須

横目でじろりマ

「横目橋」と書いて「じろりばし」と読む。双体恵比須のすぐ近くにある、材木橋から南へ二つ目の橋のこと。裏十間川を東西に挟んで、西は武家屋敷が広がる区域で、東は町人でにぎわう町人町だった。東側の親柱に「横目橋」、西側の親柱に「じろりばし」とそれぞれ橋の名前が刻まれている。狭い橋上で出会ったとき、横目でじろりと見たことから、この名がついたかも(?)。佐賀市材木町。



横目橋(じろり橋)



一番人気!!

仲良し恵比須

恵比須ツアールで一番人気。200年以上も仲良く手をつないでいるが、ガイドの際に「(魚を入れる)びくを持った女房がだんなに対して、釣り上げた鯛を『早く寄せ』と手を伸ばしているんだ」と面白おかしく紹介すると大うけたとか。佐賀市材木町。1791年建立。

恋愛成就、夫婦円満

佐賀市内の88体を巡るスタンプラリー。88体が掲載されている通い帳(冊子)を手に回り、巡礼印(スタンプ)をもらう。達成すると認定証「満願証」と、記念品の張り子恵比須または恵比須のクリスタルがもらえる。2020年8月末現在の満願達成者は2458人。



開運さが恵比須 八十八ヶ所巡り 満願達成者 2,400人超え

佐賀県で恵比須さんを最初にまつったとされる佐賀市北川副町光法の西宮社。御朱印巡りの1番札所



人気が高い神社仏閣の御朱印集めの「恵比須版」で、15カ所を巡る。全国の恵比須神社の総本社、西宮神社(兵庫 県西宮市)の御朱印がついた御朱印帳が、開運さが恵比須ステーションに用意されている。すべて巡ると「巡礼証」と恵比須像の版画がもらえる。

「恵比須版」御朱印集め



ガイドによるツアー エピソードを聞きながら

恵比須八十八ヶ所巡りの入門編。恵比須さんのエピソードを面白おかしく聞きながら15カ所を巡る。参加費1人500円(15人以上は1人300円)。所用時間90分。1名でも申し込み可。要予約。開運さが恵比須ステーション、電話0952-40-7137。

恵比須 DE まちづくりネットワーク

恵比須さんによるまちづくりを展開している団体。2003年設立で、会員約20人。恵比須巡りツアーのガイドや各種イベント、「出前講座」、調査などを行っている。会員募集中。事務局は佐賀市呉服元町7-39 開運さが恵比須ステーション内。電話0952-40-7137。http://saga-ebisu.com/



開運さが 恵比須ステーション

2014年に佐賀市呉服元町の長崎街道沿いに活動の拠点としてオープン。「佐賀の七福恵比須像」、佐賀市内の恵比須の位置を示した地図、御朱印帳、和紙で作った張り子の恵比須などを展示、販売している。

張り子 恵比須



八戸の恵比須

全戸がお金出し合い

佐賀市八戸の八戸町公民館の敷地にある。1750年建立で、台座に、当時の八戸村の人たちが一戸残らず金を出して、地域の繁栄を願って恵比須さんをつくった旨のことが彫ってある。一時途絶えた「えびすさん祭り」も2011年におよそ50年ぶりに地域の人たちの力で復活。18年に亡くなった兄良治さんとともに復活を提案した井手治助さん(72)は「町内にある18体の恵比須像は地域の人たちによって大切に守られています」と話す。

商売繁盛、大漁祈願

佐賀市川副町犬井道の海童神社に大漁や海の安全を願って建立。海をイメージしたブルーが鮮やかだ。向かい側には農業の神様ともいわれる大黒天が鎮座。1966(昭和41)年建立。



まんぷく恵比須



健康長寿

嘉瀬川ダムの所にある農産物直売所「しゃくなげの里」(佐賀市富士町畑瀬)の入り口にある恵比須さん。太閤秀吉が腰



太閤恵比須

を下ろして休憩したという「太閤石」の言い伝えにあやかり、石の上のんびりと寝そべっている。2010年建立。隣には地下から噴出している天然水の水くみ場がある。まろやかな味で、佐賀市の男性は「私は焼酎の水割りだね。毎週、近所の分までくみに来ているよ」。

佐賀恵比須神社の十日恵比須大祭

佐賀市与賀町の与賀神社境内の「佐賀恵比須神社」で毎年1月9日、10日、「十日恵比須大祭」が行われ、百福開運や商売繁盛などを願う参拝者でにぎわいを見せる。1904(明治37)年、佐賀市の有志が兵庫県西宮市のえびす宮総本社・西宮神社からご分霊をいただきまつたのが始まり。

